

二〇〇八年に出た絵本

土屋 智子

● 一年間の新刊全点を在庫する児童書店

「子どもの本のみせ ナルニア国」は、銀座の老舗書店、教文館の児童書売場です。九九年に開店し、ロングセラーを大切にしている店として営業を続けています。が、〇二年にビル内の別のフロアに、もう一つの児童書売場を設置しました。児童書の新刊のみを扱う「子どもの本新刊コーナー」です。これは、取捨選択することなく、日本で出版された児童書新刊を全点入荷し、一年間在庫する、という図書館のような機能も持った売場です。その後、〇四年に両店を合同し、今に至っています。

● 二〇〇八年の全体的な傾向

刊行点数の減少―絵本の入荷点数は、〇六年一、六一三点、〇七年一、五四二点、〇八年一、三四九点と、一昨年より減少を続けています。とくに〇七年から〇八年の減少率は一三%とかなり大きなものでした。それぞれの事情はあるでしょうが、製作費の高騰もあるようです。復刊・掘り起こしの多さ―数年前から、復刊・掘り起こし（原著の刊行は古い但未邦訳）の刊行が多いという傾向も続いています。

● 二〇〇八年のよかった絵本

「これは」と思った作品を、おおよそですが対象年齢の低い順にご紹介します（順不同）。なお、当店では「絵本は、子どもが大人に読んでもらい、心からひたりきって楽しむもの」といった立場で店作りをしています。以下の文章も、そういった視点からであることをお断りいたします。

『ちようちようひらひら』（まど・みちお文 西巻茅子絵 こぐま社）は、版元を変えての復刊、愛らしさそのものといった絵本です。『おやすみ、かけす』（エッツ文・絵 間崎ルリ子訳 大日本図書）は掘り起こし、「（かけすが）ジェー、ジェー、ジェー」など、繰り返しの言葉が眠りにいざなってくれる。『にんじんのたね』（クラウス文 ジョンソン絵 小塩節訳 こぐま社）は、『ぼくのにんじん』（渡辺茂男訳 ペンギン社）の版元を変えての復刊。『はろろどとむらさきの